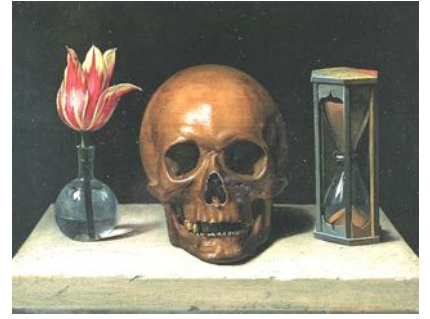


メメント・モリ *Memento mori*

牧師 立石尚志



Philippe de Champaigne Vanitas

メメント・モリとはラテン語で「remember death/汝、死を忘るるなかれ」という意味です。いにしえの西洋の修道僧たちは、机の上にわざわざ頭蓋骨と砂時計とをおいて、死という厳粛な事実に向き合い、地上での生活は華やかそうに見えても一時的なものでしかなく、永遠への備えをすることこそ大切であることを心に刻んだのでした。

春から夏にかけて、実は私はこのメメント・モリ状態が続いています。と言うのも、ここ二ヶ月間、先頃ご主人を天に送られた方の生活の立ち上げ支援をさせていただいている中、一人の方が亡くなることで生じる諸手続きの大変さを見せられてきました。また義母が一ヶ月前、6月11日に召されましたが、妻はその母の介護のために4年半ばより帰国、海を挟んで母に迫る死をひしひしと感じて来ました。それに続き、つい先日、教会員の方のお父様も長寿を全うされ一生を終えられ、さらに一昨日、日本で最後に洗礼を授けさせていただいたご婦人が天に召されて行きました。さらに死を身近に感じたのは、自分自身、単独で大きな自動車事故を起こし、自動車は大破し、結果的に廃車、一歩間違えば…自らも「死」という状況でした。

このようなわけで私はメメント・モリ状態にあるのですが、こうして時折、立ち止まって「死」という大切な問題について考えることは大切なことだと思っています。死は私たちの人生の中で唯一100%確実、と言える出来事ですから、「死」のために心を備え、生活の整えをすることは当然のことではないでしょうか。誰にでも「死」と直接向き合わなければならない時がやってくるのです。

ではどのように「死」に向き合っていくといいのでしょうか。聖書に耳を傾けることを皆様にお勧めしたいと思います。なぜかと言えば、「死」はまさに、聖書の中心テーマであり、聖書を通して、私たちは恐れることなく、真正面から死の問題に取り組むことができるからです。以下に聖書が死について教えていることを「四」点、紹介したいと思います。

メメント・モリ1：死は乗り越えられるべき問題

第一に、死は決して「自然」ではない、というのが聖書の主張です。人は時を意識し、永遠を理解できる存在として神に造られているがゆえに、人は死を「不条理なもの」として感じるようになってきているのです。死はどこから入ったのでしょうか。「罪から来る報酬は死です」とあるように死は神に対する反逆（罪）に対する刑罰として与えられたものなのです。迫り来る自分の死を考える中で、神は人がご自身に立ち返るのを待っておられるのです。

メメント・モリ2：キリストの死を見つめる：赦しと義

しかしながら、迫り来る自分の死を見つめていても問題解決はありません。私たちが見つめるべき死は、十字架にかかれたイエス・キリストの死です。キリストは罪に落ちた私たちが当然受けるはずであった刑罰を身代わりになって受け、死なれました。

神はキリストの十字架上の死を、「自分のためでした」と受け入れ、信じる者たちに赦しを与え、神の目に「正しい」と認めてくださるのです。

メメント・モリ3：二度生まれる者は一度死に、一度しか生まれない者は二度死ぬ

人は自らの罪を悔い改め、キリストの死を通して与えられる赦しを受け入れる時に、神の霊が与えられて「新生」します（これを福音と言います）。新生した者はこの地上での歩みを全うすると新しい体を与えられてもう死ぬことがありません。ですから地上にオギャーと生まれ、さらにキリストを信じて新生した者は、二度生まれ、死は一度だけ体験することになります。しかし神に立ち返らず、罪に留まる者は死後、裁かれ、神不在の場所を割り当てられます。つまり「第二の死」を体験することになるのです。

メメント・モリ4：神はだれの死をも喜ばれない／救い

エゼキエル 33:11 「わたしは決して悪者の死を喜ばない。かえって悪者がその態度を悔い改めて、生きることを喜ぶ。悔い改めよ。悪の道から立ち返れ。…なぜあなたは死のうとするのか。」

神の目から見て正しい人は一人もおらず、私たちは皆、「悪者」なのですが、それでも人は一人一人、神の似姿に造られた神の子供としての立場を与えられた尊い存在であるため、神はあなたが救われて、永遠の命を持つことを何よりも願っておられるのです。

アミューズメント

最後に一つ「アミューズメント」という言葉を紹介しましょう。ディズニーランドやユニバーサルスタジオのようなところをアミューズメント・パーク（遊園地）と言いますが、もともとアミューズ AMUSE はギリシャ語の MOUSA=MUSE（音楽、学問…考える、沈思する）がもとになり、フランス語を経てきた言葉のようです。Muse は Museum（博物館）、Music（音楽）の語源にもなっていますが、Muse に A がついて AMUSE となると「真剣に考えるべきことを考えさせない、気をそらすこと、気晴らし」という風な意味になります。裕福な暮らしをしている私たちですが、確実にやってくる死の問題に真剣に向き合うより、テレビ、インターネット、映画、スポーツ、旅行等々など、毎日をアミューズメントでつないでいくことはふさわしいことでしょうか。

最後に

多くの方は、聖書を読む時、まじめな事柄を大まじめに学べることに驚きます。学ぶ中で本当の自分の姿、罪深い自分を見いだしますが、それを遥かに上回る神の愛…キリストの十字架を通して示された「赦し」と「新生」の恵みをも見いだすのです。永遠の命を与えてくださる神に出会う時、メメント・モリは恐れることではなく、感謝の時、期待の時と変わっていくのです。■

「主と私で歩いて来たこの道」 井上幸子さん

(グリニッチ教会/教会員)

私もすでに後期高齢者となりました。この永い人生私がどのように神とかかわって生きてきたか、自分の人生を振り返りながら話をさせて頂きたいと思います。

私は祖父母がクリスチャンになり、父母と、当時としては珍しい3代目のクリスチャンの家庭に生まれました。生後3ヶ月で乳児洗礼を受け、自然に毎週家族とともに教会に行く生活をしていました。3-4歳のころでしょうか、牧師さんから、ナイチンゲールのお話を聞き、私は看護婦さんになるといつていたようです。もちろん子供の事ですからその後綺麗な着物を着た芸者さんになりたいとか、ただでいるんな所に旅行できるからバ

スの車掌さんになりたいとか色々言っていたようです。17歳で、女学校を卒業するまでは、家族とともに教会には行っていました。特に神様のことを考えることもなく平凡に過ごしておりました。この時代看護婦の社会的評価は非常に低く看護婦になりたい言う思いはもうなくなっていたのですが、牧師さんの姪御さんが聖路加看護専門学校で4年生だということで進められて上京し、聖路加で看護の勉強をすることになりました。しかしこの昭和17年末から24年9月までの4年間は考えもしなかった試練の年でした。ことに敗戦の機運が高まった最後の一年間は連日アメリカの飛行機による空爆を受けまるで雨が降る

ような勢いで爆弾が投下されました。特に昭和20年4月の東京大空襲では、一時間足らずの間に東京は焼け野原になってしまいました。毎回、空襲が終わると共に焼け爛れた人が次々と聖路加病院に運び込まれました。私も学生も勉強などしている時間もなく即、実践で昼も夜もなく救護に当たりました。さらに聖路加はアメリカ聖公会の支援により建てられたキリスト教の病院、学校であったため、色々の迫害を受けました。

当時20歳の私はこのような無惨な多くの死を見ることに耐えられず、看護の資格は得ましたが、看護をやめて、生産にかかわる仕事をしたいと思い大学の農学部で勉強のし直しを始めようと考えました。しかしやっとな新しい生きる道を見出したかと思ふもなくアメリカ軍司令部から、聖路加の卒業生は日本の看護を向上させる使命がある、アメリカに行って看護の勉強をしてくるとの命令を受けたのです。当時日本はアメリカの占領下にあり唯一アメリカの息のかかった、聖路加の卒業生は貴重な存在だったのです。当時の司令部の命令は絶対的なものでしたので、それから必死で英語の勉強をしました。戦時中は英語の使用は絶対禁じられていて日常使うカタカナ文字をどう日本語で表現するか、困ったくらいでしたから鬼畜英米といわれていたアメリカに不十分な語学力で行くということは正に第二の大きな試練でした。

ニューヨークに向かう飛行機でアメリカの婦人と隣り合わせでした。その婦人は、柔らかい紙で鼻をかみ、それを捨てるのです。勿体無いと、じっと見つめていたのでしょうか。何しろそのころ日本にはそんな柔らかい紙などなく、子供達は新聞紙で鼻をかんでいたのですから。その婦人は残りを私にくれました。どこに行くのかと問われましたので、アメリカに、看護の勉強に行くと答えたら、これをもっていると幸せになるからずっともっていきなさいとドルの硬貨をくれたのです。今思うと GOD BLESS YOU と言われたと思いますが神という言葉だけが耳に残り、アメリカにもやさしい人がいるんだと安心したことを、昨日のこのように思い出します。

大学で一か月の語学研修を受けたのですが、若いアメリカの青年達に自分から話しかけることも出来ず、死にたいと思うくらいの苦しい日々でした。そのとき一人の青年が話しかけてくればつづつ話しているうちに、私の英語がどうやら通じることに少し自信を持つことができました。まさかこの青年と30年後結婚することになるとは、夢にもかんがえておりませんでした。看護大学では、父親が牧師と言うクラスメートが、学びや、生活を助けてくれ、教会にも一緒に行くようになり、無事に1年半の期間を過ごすことができました。今にして思えば、永いことアメリカを憎み、神を忘れ、祈ることも忘れておど

どと生活していた私に神様はちゃんと道を備えて下さったということ、はつきりと知ることが出来ます。

聖書に『あなた方の会った試練で世の常でないものはない。一神は試練と同時にそれに耐えられるように逃れる道も備えてくださる』と有りますが、神様は、私の人生の二つの大きな試練をこのように導いて下さったのです。一時辞めたいと決心した看護の道に戻ってから、40年余ずっと看護の業務を継続、定年を期に結婚をしてアメリカに永住することになりました。

渡米後、何箇所かアメリカの教会に参加しましたが私の英語力では、ただ教会に行っていると言うだけでよく理解できず、10年後にやっこの日本語の教会に巡り合い、それから10年余になります。クリスチャンとしての生活は長いのですが、この教会に来て始めてじっくりと聖書を読むようになりました。年を取ると理解力も記憶力も衰え苦勞していますが、先生にきて頂いて、自宅での聖書勉強会もすでに10年を経過しつづつ聖書の学びを続けています。

この教会で聞いた賛美の歌詞が私の信仰生活における人生をよくあらわしている様で胸に響きました。それは、

主と私で歩いてきたこの道、足跡は二人分、でもいつの間にか一人分だけ消えてなくなっていた。主よあなたはどこに住ってしまったのですか？私はここにいる。あなたをおぶって歩いて来たのだ。あなたは何も恐れなくてよい。私がともにいるから。



というものです。幼い頃は、神様はいつも私とともにいてくださるということ、ごく自然に感じていたのですが戦争と言う大きな試練の中で神の存在を忘れ、祈ることもわずれ、さらに仕事についてからは、仕事に忙殺されて教会からも足が遠のいてしまいました。そんな私を神様は見捨てず、おんぶしてこまごま私を導いてくれたことを痛感しています。

これから後何年この世の生活が出来るか、神様の計画がどのようなものであるか全くわかりません。同じく聖書に『何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。』と有ります。これからの生活がどうなるか、何時まで生きるだろうか、どのように死ぬのかなど心配してみても仕方のないことです。ただそのときが来るまで、自分で出来ること、身の整理、遺書を書くなどの準備をして、後はすべて神様にお任せと言う気持ちで現在過ごしています。■

■ 2013年夏から秋にかけての集会・行事予定 ■

※ 下記以外にも週の間、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝 / 10:00~11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。
礼拝後 グループ会 / 12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます
- ★ 祈禱会 / 水曜日 10:00~12:00

【各種集会】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会
隔週水曜 1:15pm 場所: 井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜午前
毎週木曜午前 場所はお問い合わせください

★ ハリソン 聖書を読む会

- 隔週火曜 10:00am 場所: ハリソン長老教会
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所: 平野宅
- ★ メンズ・バイブル・フェローシップ
木曜日 8:00pm 場所: 教会図書室

● ウェルカム礼拝 7/28(日)、8/25(日)、9/29(日) 10:00~11:30pm

礼拝は初めて、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容の礼拝です。毎月最後の日曜日に行っています。

● 夏の英語バイブルキャンプ 8/12(月)~16(金)

今年も St. Paul Lutheran Church 主催の通いキャンプに合流します。教会キャンプは無料でも内容は盛り沢山です！

● 教会ファミリーキャンプ 8/25(土)~9/02(月)

レーバーデー・ウィークエンドに NY 北部にテント旅行に出かけます。ふるってご参加ください！

● 図書室を解放しています！

教会の蔵書を貸し出しています。絵本、小中学生のための本、信仰入門書、キリスト教文学、神学書多数あります。

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》 教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

